

東日本 **ASSOCIATION OF PLASTICS MOLDERS, EAST JAPAN**
APM ニュース

第513号 2019. 2/12

一般社団法人 東日本プラスチック製品工業協会
 東京都中央区築地3-12-5 築地小山ビル TEL 03(3541)4321
 URL: <http://www.ejp.or.jp> FAX 03(3541)4324
 発行人 八尋 一恭

目 次

平成31年新年賀詞交歓会…………… 1
 全日本プラスチック製品工業連合会賀詞交歓会… 4

事務局レポート…………… 5
 品質不正問題について…………… 7

平成31年新年賀詞交歓会 賑やかに開催

“プラスチック業界も形にとらわれないばかげた挑戦をする勇気が必要”



大野会長挨拶



福岡政行先生



講演会の様子

平成31年1月17日(木)、上野精養軒3階「桜の間」において恒例の新年賀詞交歓会が、官公庁、関連業界団体等多くのご来賓のご出席の下、大勢の会員が出席して賑やかに開催されました。

賀詞交歓会に先立ち開催された新春講演会では、東北福祉大学特任教授の福岡政行先生をお招きし、「今年の政局と経済動向」と題し、新元号にまつわる話など大変興味深いお話をいただきました。1時間の講演もあっという間に過ぎ皆様にご満足いただきました。

その後、会員企業の経営と業績に大いに貢献し、各社より推薦戴いた2名の従業員に対し貢献者表彰式が行われました。

17時からは新春祝賀会が始まり、当協会の大野泰昭会長から以下の挨拶がありました。

「新年あけましておめでとうございます。皆様には謹んで新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は会員の皆様はじめ関係官庁、業界団体さらに多くの皆様には格別なるご支援を賜り誠に



貢献者表彰式

ありがとうございました。本年も宜しく願い申し上げます。関東経済産業局産業部担当次長五十嵐様はじめ課員の皆様には常日頃からあたたかいご支援をいただき心よりお礼申し上げます。

さて今、景気回復が戦後2番目の長さにとびついています。2019年1月まで続けばなんと最長になるのだとか。内閣府の研究会の認定だそうです。神武、岩戸、いざなぎなどと景気の名称は神代をさかのぼるようです。実感に欠けるのもっともで、現在の局面が始まった2012年から昨年度の平均成長率は1.2%ですが、1965～70年度の「いざなぎ」の時は10.1%もあったそうです。今とは良くも悪くも時代の勢いが違った感がありました。

お話しが変わりますが、ここで一つ興味深いお話をさせていただきます。去年のノーベル生理学・医学賞を取られた本庶教授のインタビューが新聞に載っておりました。

「ばかげた挑戦革新を生む」というタイトルの記事の中で、「イノベーションとは何ですか。」との記者の質問に対して、本庶教授は「イノベーションとは結果だ。とんでもないと思うようなことから始まって結果として世の中を大きく変える。アマゾンやフェイスブックが登場した時、『うまくいくわけがない』、『どうやって儲けるんだ』とバカにされた。世界のトップ企業になるなんて、当時は誰も思わなかった。振り返ってみれば、あれがイノベーションだったと認識される。」と答えています。また、「イノベーションを起こすにはどんな取り組みが必要ですか。」との質問に対して本庶教授は、「政府はあまり規制せず、ばかげた挑戦をやりやすくする環境整備をすべきだ。土地を耕してタネをまくのが政府の役割だ。」「イノ

ベーションの基礎は学術だ。学術が希薄で技術導入だけやっても、やがて枯渇するのは明らかだ。日本の学術が明治から始まったとすれば、150年でもようやく花が咲いた。」「基礎を固めるのは時間がかかる。次の150年をどうするのかという視点で考えるべきだ。日本が浮上するためにはかなり思い切ったことをやらないといけない。もっと徹底的にしっかりとした学術を育てないといけない。」とインタビューに答えています。今まさに我々プラスチック業界も、形にとらわれずばかげた挑戦をする勇気が必要なのではないのでしょうか。しかしながら、ばかげた挑戦をするための土台作りも並行して地道に形作る必要があると教わった内容のインタビューだったと思います。

いろいろお話ししてきましたが、平成31年が我々業界にとって良い年になることを信じて事業経営に邁進していきたいと思っています。これで新春のご挨拶にかえさせていただきます。』



祝辞 五十嵐悟次長様

続いて来賓を代表し関東経済産業局産業部の五十嵐悟次長様から以下の祝辞をいただきました。

「平成31年の新年を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

皆様方におかれましては、企業経営者として、産業と経済の発展にご尽力を頂いておりますことに、心より敬意を表する次第です。また、日頃より経済産業行政にご理解とご協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

昨年の管内経済を顧みますと、鉱工業生産活動は情報通信機械、電子部品・デバイス、汎用機械などを中心に緩やかな持ち直しの動きがみられ、雇用情勢も改善してきており、プラスチック製品工業においても、ここ数年は堅調な動きとなっております。

さて、今年は、平成最後となる節目の年です。現在、我が国経済は、激動する世界情勢の中で様々な構造変化に直面しております。地域の企業においても、そうした変化をよく見据えて事業活動を展開していくことが求められております。

1つ目は、デジタル革命の深化です。米国ではGAF Aが顧客ビッグデータをビジネスに結び付け企業価値を大きく伸ばす一方、中国でも一部企

業と国家がビッグデータを収集、イノベーションを加速させています。こうしたスピードに対応した「時間を買う経営」の発想が一層重要となってきています。

2つ目は、世界情勢における地政学的な変化です。米中のハイテク覇権競争は日本と無縁ではありません。企業がグローバル展開を図る上で、激変する世界情勢の動きに対してもこれまでに以上にアンテナを高く張り、情報を集めていくことが重要となってきます。

3つ目は、人口減少の加速です。管内の人口をみても、今後10年間で約5%にあたる250万人近くの減少が予想されております。地域の中小企業・小規模事業者においては、経営者の高齢化、人手不足、人口減による弱い内需など、大きな構造変化に直面しております。人口減問題への根本的な対応と同時に、人不足に対応した自動化、AI/IoT等の技術の実装も重要な課題となっております。

このような構造変化は今年も一層顕著になるものと考えられます。関東経済産業局では、こうした情勢に対応し、職員が率先して地域の現場に足を運び、支援の担い手である自治体、産業支援機関、金融機関、大学・研究機関、他省庁等との関係強化に努め、地域の中小企業等の経営者に寄り添いながら、一つ一つの問題の解決に果敢に取り組んでいく所存です。

本年10月には消費税率の引上げが予定されており、その際には、税率8%と10%、双方の商品を取り扱う事業者は様々な対応が必要になります。こうした事業者を支援するため、軽減税率に対応するためのレジや受発注システムの改修・導

入に対する補助金をご用意しております。IT導入補助金は31年度は450万円と補助の限度額を大幅に引き上げています。皆様におかれましても、こうした支援策をご活用いただきたく、よろしくお願ひ申し上げます。

日本経済の再生は、行政の力だけでは出来ません。皆様方のお力にかかっております。こうした経営者の交流の場をいち早く開始し、長年続け、自由で活発な意見交換等をされていることが、様々な連携や、業界の活性化に通じていると思います。引き続きのご活動、期待しております。

結びに、皆様の益々のご発展と、本日ご参会の皆様方のご多幸、ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。」

次に当協会の上部団体である全日本プラスチック製品工業連合会宮本理事の乾杯のご発声で、参加者全員で杯を挙げ、祝宴が始まりました。

18時20分、川野副会長の中締めとなりました。



宮本連合会理事の乾杯



川野副会長の中締め



賀詞交歓会会場の様子

全日本プラスチック製品工業連合会 賀詞交歓会

～時を超え・更なる考動～



加藤連合会長挨拶

平成31年1月24日(木)、第一ホテル東京4階「ブリマヴェーラI」にて官公庁、関連業界団体等多くのご来賓をお招きし、恒例の賀詞交歓会が開催されました。

定刻の17時に渡辺総務委員長の司会で賀詞交歓

会が始まりました。開催にあたり当連合会の加藤豊会長から以下の挨拶がありました。

「改めまして、明けましておめでとう御座います。新年を迎え一言、挨拶をさせていただきます。

皆様には於かれましては、穏やかな新年をお迎える事と、お慶び申し上げます。旧年中は経済産業省様、関係諸団体様はじめ、連合会会員の皆様には格別なるご指導、ご支援を賜わりまして、高い席からでは御座いますが、御礼申し上げます。誠に有難う御座いました。本年も引き続きご指導、ご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年を振り返って見ますと、国内外問わず、色々な出来事がありました。国内に於いては明るいニュースとして、高円宮絢子様のご結婚、スポーツ界では、若いアスリート達の活躍が目立ち、特に大相撲11月の福岡場所におきましては、22歳の小結貴景勝が横綱不在中ではありましたが、久しぶりに日本人力士が優勝をした事が思い出されます。一方で、災害も多く発生し、台風21号、24号が大阪を含む近畿地方に大きな被害をもたらしました。更に地震も多くあり、特に北海道地震では地滑りで山が大きく崩れた事も記憶に鮮明に残っております。被害に遭われた方々に対しては、本当にお悔やみ申し上げます。

また、11月にカルロス・ゴーン氏が不正行為疑惑により逮捕、それにより日産自動車、三菱自動車の会長職解任と色々世間を騒がす出来事がありました。企業のデータ改ざん問題も多く発生するなど、我々身近に於いても何らかの影響が出て来る様な出来事が沢山ありました。昨年を一字で表すと「災」でありました。出来れば今年には『災い転じて福となす』のような年になって頂きたいと思う次第です。

海外に於いても色々な出来事が多くありました。

日韓問題の再燃、米中の貿易摩擦の激化、北朝鮮問題などあり、TPPの発動、トランプ大統領の発言も含め、日本の政治経済にも大きな影響を与える様な出来事が沢山ありましたが、昨年一年間を通して見ますと、我々業界に於いては比較的、景気も穏やかな年だったと思います。

では、今年は何の様な年になるのでしょうか？ある資料では、2019年の経済を展望すると、「引き続き穏やかな成長が続くと予想されるものの、海外経済の回復ペースが幾分減速していく中、日本の景気の回復も鈍化していくと見込まれる。」となっています。今年の干支は「己亥(つちのと・い)」だそうです。干支から今年を見ると、「2019年は将来の成長に向け、エネルギーを蓄積する」いわば準備の年回りであり、蓄えた力をより良く発揮できる様、道筋をつける年だそうです。我々は、成長基盤を構築し、着実に歩を進め、環境の変化にもひるまず、前進すべき年と考えられます。

我々身近な問題では人手不足等の解消に向けての外国人雇用問題、マイクロプラスチックの問題(海洋プラごみ)、AI・IoT等の推進問題等、色々取り込むべき課題が多く蓄積しています。今年の初場所は日本人ただ一人の横綱稀勢の里が引退し、横綱鶴竜、大関栃ノ心も怪で休場となるなど波乱の幕開けとなりました。今年始めの株価は、現在は戻りつつありますが、一時20,000円を割り込み、19,200円台にもなり、為替も一時104円台の円高/ドル安でのスタートとなりました。景気も同様に今年は波乱の幕開けであり、予断が許されない年になりそうです。今年も景気の動向を左右するのは米中問題、イギリスのEU離脱問題の成り行きも大きく、色々な面で影響が出て来る『油断の出来ない』大事な年になるかと思う次第です。我々も身近なユーザーを含め動向を良く観察し、見極めて行動する必要があると思います。

最後になりますが、今年には平成最後の年であり、新しい元号が発令される年でもあります。日本国、更には我々企業にとっても益々、飛躍の元年となる事を願い、また、我々も時(時代)を超え常識に左右されず、『更なる考動(考えて行動して行く事)』を誓い、合わせて皆様方にとっても良い年になる事を、心からご祈念申し上げまして、私の新年の挨拶とさせていただきます。ご清聴有難う御座い

ました。』



経産省・井上企画調査官様
ご挨拶

続いて経済産業省 素材産業課 井上宏一企画調査官様より、以下のご挨拶をいただきました。

「新年あけましておめでとうございます。昨年は米・中摩擦等により経済も大きな影響を受けるなど目まぐるしい一年となりました。今後いろいろ

いくな課題にスピード感を持って対応していくことが重要となってきています。そうした中で、10月には消費税が10%に引き上げられることから、内需をしっかりと支え、中小企業の皆様の事業に支障が生じないよう経済産業省としても十分な施策を講じていきます。

消費税率引き上げに向けても AI・IoT の活用による円滑な対応を図っていただくため、また、中小企業の皆様の果敢な挑戦を支援するため、コネクテッド・インダストリーズ税制等の措置を講じていきます。

また私たちを取り巻く大きな課題として海洋プラスチックの問題があります。プラスチックは例えば食物の保存等を見ても人々の生活を支えるうえで欠かせないものです。きちんとした対応を図

りさえすれば、これほど便利なものはありません。こうした海洋プラスチックごみ問題に対処するため、今月18日に「クリーン・オーシャン・マテリアル」という組織が正式に発足いたしました。現在のところ約160社がご加入いただいております。ぜひ連合会の会員の皆様もご参画いただけますでしょうか。

最後に平成最後の新しい年に向けて本日ご出席の皆様への社業の発展と連合会の益々のご発展を祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。」

次に当連合会大野泰昭副会長の乾杯の発声で祝宴が始まりました。

18時20分、横山真喜男副会長の中締めでお開きとなりました。



乾杯 大野副会長



中締め 横山副会長

事務局レポート

■第371回理事会議事録

1. 日時 平成31年1月17日(木)
14時30分～15時15分
2. 場所 上野精養軒 3階「菊の間」
東京都台東区上野公園4-58
電話03-3821-2181

3. 出席者

大野 泰昭	大井 英一	大塚 一郎
川野 幸博	上村 俊彦	住田 嘉久
安達 七郎	池下龍一郎	野坂 晃司
嶋田 修二	佐藤 義明	内藤 隆夫
山下慎一郎	平塚 隆文	伊藤 宏使
滝口 裕	植田 好司	河合 清美
腰越 稔	小松 幹也	関根 忠
肥後 武展	小野 勝彦	佐羽 宏之

武田 久徳	大山 剛	池添 亮
八尋 一恭		
以上出席28名(理事総数34名)		
熱海 利宏		
以上理事待遇1名		
古澤 正弘	谷 和雄	野邊弘一郎
以上監事3名		

4. 大野会長ご挨拶

新年あけましておめでとうございます。本年も宜しく願い申し上げます。

本日は理事会・講演会・新年賀詞交歓会と続きます。理事の皆様には、審議していただく事項が多数ございますので、ご挨拶は賀詞交歓会の場で改めてさせていただきます。では円滑な進行をお願いしまして、挨拶にかえさせていただきます。

5. 専務理事より定数の報告

本日出席者理事は28名であり、定款第33条の規程より、過半以上の出席があり、本理事会が有効に成立している旨の報告がなされた。

6. 議長選出

定款第30条の規程により会長が議長に選出された。

7. 議事録署名人

議長は、定款第34条により、同人と野邊監事が議事録に捺印することを説明し、了承された。

8. 議事

議題1. 経過報告(前回理事会以降の主要行事)

専務理事から、前回理事会以降の主要行事について、以下の報告と説明をした。

(1) 役員会等の開催

11月29日 第370回理事会 東ブラ健保会館

(2) 部会・委員会の開催

① 技能検定運営委員会

12月7日 合格証書伝達式 東ブラ健保会館

12月8、9日 3級技能検定実技試験 板橋校

② 能力開発推進委員会

12月3日 ブロー検定水準調整会議

東日本協会

12月4、5日 ブロー検定機械説明会

(株)タハラ

12月11～19日(16日除く)ブロー検定

(株)タハラ

12月20日 ブロー検定製品採点 (株)タハラ

③ 青年経営研究会 (JPO)

12月12日 役員会・忘年会

ホテルインターコンチネンタル東京ベイ

(3) 支部会等の開催

12月5日 城北支部会 東天紅上野本店

(4) 全日本ブラ連合会

12月17日 年末挨拶回り

経済産業省素材産業課他

以上議題1について諮ったところ特に異議なく了承された。

議題2. 会員の入会・退会承認の件

以下専務理事から説明した。

(1) 会員の増減

	正会員	賛助会員	計	団体
前回	159社	64社	223社	7団体
増加	0社	0社	0社	0
減少	0社	0社	0社	0
現在	159社	64社	223社	7団体

以上議題2について議長が議場に諮ったところ、特に異議なく了承された。

議題3. 平成31年賀詞交歓会の件

配布資料に沿って、専務理事から説明した。

(1) 開催日 平成31年1月17日(木)

(2) 会場 上野精養軒 3階

※開催要領等(別添資料の通り)

以上議題3について議長が議場に諮ったところ、特に異議なく了承された。

議題4. 第51回通常総会の件

以下専務理事から説明した。

平成31年5月23日(木) 上野精養軒

上程議案(案)

① 平成30年度 事業報告、決算報告承認の件

② 平成31年度 事業計画案、予算案承認の件

③ 他

以上議題4について議長が議場に諮ったところ、特に異議なく了承された。

その他報告事項

① 連合会行事

・賀詞交歓会

日時：1月24日(木) 第一ホテル東京

15時～第188回理事会、勉強会

4階「プリマヴェーラⅡ」

17時～祝賀会

4階「プリマヴェーラⅠ」

※来賓、会員合わせて80～90名参加予定。

・第187回理事会(平成31年4月22日(月))

会場=ホテル日航大阪

・第58回通常総会(平成31年6月6日(木))

会場=名鉄犬山ホテル

翌6月7日(金)に懇親ゴルフ

会場=富士カントリー-可児クラブ

可児ゴルフ場

② 景況アンケート

③ 12月末残高試算表

④ 今後の理事会等スケジュール

⑤ その他

以上その他報告事項について、異議なく了承された。

以上をもって、第371回理事会における審議を終了し、議長は15時15分、理事会の閉会を宣した。

品質不正問題について

—品質保証体験者の私見—

日本経済新聞(2018年3月13日)によれば、大手メーカーにおける一連の品質不正問題について「日本の製造業の競争力の源泉とされてきた現場主義はいつしか空洞化し、これまで築いてきた信頼を傷つけ、経営トップは再発防止を誓うが、病弊する製造現場を立て直さなければ、世界に誇ってきた日本品質は地に落ちかねない」と警告している。品質不正問題が発生して、社長がマスコミの前で深く頭を下げて陳謝している姿を見ると、日本の製造業がかかえている問題の深刻さが身に染みてわかる。

高度経済成長期には、製造現場ではQCサークルなどの全員参加型の品質改善活動に取り組むことにより、日本の製造業は高品質を売りに世界を席巻した。しかし、1990年代に入り円高やバブル崩壊でレストランや工場の海外シフトが進行し、さらにリーマンショックが追い打ちをかけ経営環境は悪化した結果、経営者は利益を最優先させて品質には無関心になっていったと思われる。今回の一連の品質問題は検査データの改ざん、無資格検査員による検査などの検査工程における不正の問題であった。これらの品質不正問題が発生したことをチャンスとしてとらえ、もう一度品質保証体制を再構築することを期待したい。

筆者(案山子)は、製造メーカーで品質保証責任者として品質改善活動、ISO9001取得、市場クレーム対応などを体験したことがある。それらの経験をもとに一連の品質不正の再発防止について私見を述べる。

(1) 利益最優先からの脱却

会社が存続・発展するためには、利益確保が大切であることに異論はない。だからと言って品質保証担当部門にまかせっきりで、経営者が品質に無関心であってはならない。品質不正が発覚して社会的問題になれば、ブランドイメージ低下、製品回収、生産ダウンなどの損失が発生するので、かえって利益減少につながる。

社長がすべてをみるのは困難であるので、品質に対する取り組みが一過性で終わらないように社長に代わって、品質保証を担当する役員を置くべきである。担当役員には品質保証に精通したブレインをつけ、各製造事業所の品質情報を集約し、問題があれば迅速、的確に対応する。品質担当役員は社長に品質状況を報告し経営方針に反映させるようにする。

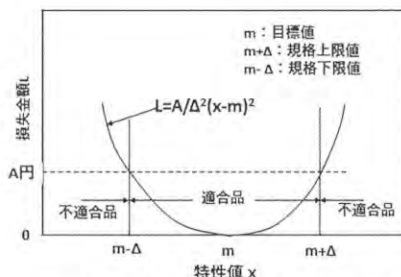
(2) 製造設備の更新

製品の品質は製造設備の良し悪しに依存するところが大きい。これまでは海外の設備建設へ重点的に投資

され、国内の製造設備は老朽化が進んでいる。ここで、国内工場の設備更新や新鋭機の導入によって品質向上を図るべきである。

(3) 設計段階や製造工程で品質の作り込みに徹するべき

品質は製品を検査して選別することでは向上しない。設計段階や製造工程で品質を作り込むことが大切である。品質工学(タグチメソッド)を開発された田口玄一先生によれば、図のように品質バラツキによる損失金額(L)は目標値(m)からのバラツキ(Δ)の二乗に比例して大きくなるといわれている。



目標値mからのばらつきΔと損失金額Lの概念図

同図のように適合品であっても規格値(m±Δ)ぎりぎりの製品は、目標値mに近い製品より損害金額Lが大きくなるのがわかる。例えば、試験を満点で合格した人と合格点ぎりぎり合格した人を比較すれば、満点の人のほうが優秀であるという考え方と似ている。

(4) 検査データ管理システムへのIoTの導入

IoTを積極的に導入し、生データ保管や検査データはサーバに送り込み検査データをロギングして書き換えができないようにする。QC工程表の管理基準や検査規格をもとに製品の適合または不適合を自動的に判定する。設計や製造部門ではこれらのデータにアクセスして、不適合率が多い場合には設計や製造工程にフィードバックして改善する。

(5) ISO9001品質マニュアルの遵守

ISO9001を取得した会社では、未検査品と検査済み品、適合品と不適合は識別して保管することが要求されている。ISO9001の原点に立ち返って品質マニュアルに基づいた管理をするべきである。

(案山子)



成形工場のIoT／生産管理は ムラテックにお任せください!

成形業統合生産管理システム **GMICS**

- 成形業の必要項目を網羅したマスタ情報
- 材料価格変動時の単価一括更新
- 分かり易い組付品構成 (多段階部品構成)
- EDIデータ (内示、受注) の取込み
- 工場の運用に合わせた在庫管理
- 担当者が確認すべき手配を案内 (MRP/所要量計算)
- 成形スケジュールと現場監視
- ロットトレース機能

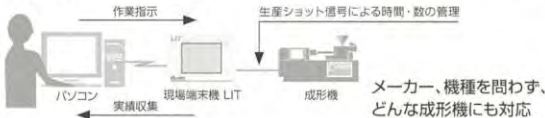
成形業に特化した MES機能を含む統合生産管理システム



成形工場生産管理システム **MICS7**

- 最適スケジューリング作成
- 稼働状況監視
- 実績管理
- オンラインによるリアルタイムな作業指示
- 正確なデータの自動収集
- 保守 (金型・成形機) 管理

成形現場の「見える化」と効率アップを サポートする生産管理システム



ミドルウェア

フォーマットの共通化
システムオープン化

射出成形機

生産管理システム

品質監視システム

金型用センサ

ムラテック情報システムは、西日本プラスチック製品工業協会および近畿経済産業局と協同で、成形機のデータフォーマットを共通化しデータを統合するシステム「Middleware (ミドルウェア)」の開発を行いました。Middleware と弊社システム製品とのデータ連携強化の取り組みを通して、プラスチック成形業におけるIoT導入拡大に取り組んでまいります。

新しい技術の創造で豊かな社会の実現をめざす 村田機械グループ

ムラテック情報システム株式会社
<http://www.muratec.jp/mis>

- 本社 / 京都市伏見区竹田向代町136 〒612-8686
TEL 075(672)8257 FAX 075(672)8307
- 大宮支店 / 埼玉県さいたま市大宮区宮町4丁目85-1 〒330-0802
TEL 048(649)6139 FAX 048(649)5123